

令和元年度 沖縄県振興審議会 第5回学術・人づくり部会議事要旨

令和元年11月19日（火）14：00～16：00

議題【部活動に関連した学力向上の取り組み】について

- 沖縄に全国から学力向上の取り組みを視察に来られると思うが、中学校については秋田とか先進県の状況等も見ながら、取り組んでいただきたい。

- 学力を小学校、中学校も引き上げてもらいたいというのはもちろん県民の願いでもあるかと思いますが、教職員の働き方の問題で部活にかかる時間があまりにも多いという報道があり、一つ大きな課題かと思えます。
沖縄の子どもたちが中学校、高校もいろいろな部活で成果を上げているのはマスコミで知るところではありますが、その裏にはまた先生方が犠牲になっていると感じており、働き方の問題という形で課題が提示されていると思えます。

議題【雇用されることを前提とした対策からの転換】について

- これからの教育というのは、社会の変化、人生100年時代の新社会人基礎力と変わってきているように、学校現場の壁も外していかないといけないと感じています。産業振興部会からの申し送りについて、小中学校の担当課と、県立学校教育課とのすり合わせはされているのでしょうか。

- 今からの日本は課題先進国と言われているものを課題解決先進国にするためにどんな人材が必要かという、チェンジメーカーが必要であることは明確です。
課題解決をする人材がどういうものなのかは、県全体でも考えていけないといけないことで、産業界、地域との連携を今よりも踏み込んでやっていく必要があるのではないかと。
そのキーワードとして探求やPBL（Problem-based Learning、Project-Based Learning）という研究も進んでおり、今後この課題解決先進国に向けて、注目度は非常に高くなっていくかと思えますので、今回、

または、次の計画なのかというところで研究をしていただきたい。

- 社会体験やものづくりとあるが、「ものづくり」について具体的に教えていただきたい。
- ものづくりというものに関しては、義務教育と連動して高校、それから大学、将来自立というビジネスマインドが図れるような形、発想ができるような形にしていきたい。
- 3年ほどキッズビジネスのような形で各市町村、協会で生涯学習フェスティバルをやっており、今回、宮古を初め離島圏、石垣の2島を3年間一般の小中高生を対象に、職業体験を行った。
特に中学生に人気があったが、予算がないということで3年で打ち切られており、県の方向性と今求められていることはほとんどかみ合っていないというのが実情であるため、今後実績を見て評価されたほうがいいのではないか。
- 子どもたちが小学校から高校まで職業意識を高めようということでキャリア教育は推進されていると思うが、キャリア教育に「起業」という文面、言葉がない。
職業意識を高めていくキャリア教育の中で、会社起こしも一つの取り組みであるため、広い視点での文面にしていきたい。
- 産業振興部会からの提言というのは、もう少し企業の側に立ったキャリア教育も必要ではないかと読み取っていますが、この辺はいかがでしょうか。
- 雇用されることを前提とした政策が、そうではなくなってくるのではないかと感じる。
沖縄の現状として、この先貧困の状態がどうあるのかとか、大きな懸案事項はあると思うので、社会全体の中でどんな人材を生み出さないといけないのかは引き続き議論していく必要があるのではないか。
また、産業教育と学校教育について、率直に議論し合っていく必要が今後増してくるのではないか。

議題【薬学部】について

- (資料1-別紙1-13頁59番) 企画部あたりで例えば県内の高校生に対する希望の学科であったり、学部等の調査を踏まえた上での薬学部設置という形で出てきたのか、あるいは、薬剤師が不足しているということでの薬剤師養成のための学部設置なのか。

- 今、沖縄県の子どもたち、高校生が県外に随分と流れていってまので、薬学部以外の学部・学科等についても高校生の希望としている学科等があれば紹介していただきたい。
- 薬剤師の確保について、報告書の一番下に「県内での就業を促進するための取組を推進する必要がある。」というところで、県内で就業を促進するための取り組みというのは給与でしょうか。それとも待遇でしょうか。また、現在、県外にいる県内出身の学生が戻ってくような魅力的な取組がされるのでしょうか。
また、今後、薬剤師は今度は全国的に飽和状態になるため、研究機関と接続した就職までを考えなければいけないのではないかと。

議題【中学校の学力】について

- （資料3-別紙1-10頁42番）中学校の現場の先生方は校内研修であったり、若手の先生方の授業は非常に質が高いと思うが、それ以上に子どもたち家庭が持っている課題ということが大きくて、授業改善だけではなかなか学力に結びついていないのではないかと。
- キャリア全体を通しての見通しが十分立っていないところで苦しみもがいている中学生は相当数いるので、現場の教師は50分間の授業実践でかなり集中的に経年研修も踏まえていきながらやっている。そこだけを切り取っていくと、もっと現場の先生方を追い込んでしまっている書き具合になってないか。
もう少し家庭との協力もとりたいところですが、家庭教育の機能そのものが崩壊している家庭もたくさんありますので、そのあたりを行政としても、学校側としても、どう切り込んでいくのかということを知恵を出す必要があるのではないかと。
- 沖縄の子どもたちの進路決定の遅さは随分と新聞でも報道されていますし、進路決定が遅いということは目的意識が不明瞭でぼやっとしているんです。ただ中学3年生に正月がきたら高校受験が迫ってきますので、とりあえず受けますが、沖縄の場合には高校に受かっても中退率が非常に高いです。
トータルとして義務教育の中で高校とつなげていく作業もしながら、自分のキャリアとか生き方の問題というものを根底に据えて子どもたちに考えさせる必要があるのではないかと。単に授業改善だけではうまくいかないため、今後大いに議論していただきたい。

- 学校の授業改善という大きいくりでは解決はできないだろうと、これは皆さんそう思っていると思います。小学校がこれまで改善されたというのは、本当に参加する授業を先生方が頑張り、小学校で子どもたちがアクティブラーニングで自分たちが活動できるような授業に持っていたということもあると思うので、中学校の場合はどうしてもそういう教科担任制が壁になっていることもありますので、その辺も今後改善しながら、家庭学習をどうするかも念頭に置いて、今後の取り組みの中で頑張っていたきたい。

- 問題は小学校と中学校にどのような差があるかということですが、中学校は教科専門の教育になりますので、教師側、学校側から自分の専門知識を子どもたちに伝える、与えるという方向のため、子どもたちの授業中の学習行動を育てていくという視点が小学校に比べて弱いのではないかと。

- ほかにも原因はあると思うが、当面、授業中の子どもたちの学習行動を育てていくような授業の改善を目指したほうがいいのではないかと。そうすると、自分が勉強したらいい結果が出て、子どもたちの意欲を育てる一番大きな力になるため、この辺の視点を中学校の授業改善で十分検討されていないのではないかと。

- 学力が上がっていないかという分析は、各セクター、専門家で行うのでしょうか。例えば勉強面、学力面のことも必要だと思うが、メンタル面や、いろいろな側面からのアプローチを考えなければいけないのではないかと。

- キャリアパスポートについて、小中高の連携の中で自分がどんなことに興味があってということを取り返られるような仕様になっているのか、今、県としてのキャリアパスポートの方向性がどのあたりまで決定されているのかどうかを伺いたい。

議題【預かり保育の保育士】について

- （資料1 別紙1 16頁71番）待機児童について、那覇市の場合、数字上は認可保育園の数は増えておりますけど、保育士の退職率が非常に高く待機児童は非常に多い。
国は介護のほうには力を入れたけれども、保育には力を入れなかった結果でこうなっているのではないかと感じる。県としてはどういう考えがあるのか。

議題【グローバルリーダー】について

- （資料1-別紙1-19頁83番）県は高校生の留学を推進してますが、令和3年でグローバルリーダーの事業は終わると伺っておりますが、そのとおりでしょうか。

- 人材育成が着実に成果を上げている中で、希望としては続けていただきたい。恒常的な人づくりというのは他府県にないグローバルリーダーですから、沖縄県にとっても重要な課題だと思いますので、引き続き継続した人づくりをしていただきたい。

- グローバルリーダーの成果として、進学なり就職されていることも何かしら分析していると思うが、県として受け入れ態勢も整えられているのか伺いたい。

その他

- なし

以 上